

情報ネットワーク

高島高等学校進路通信
2013. 8. 23発行

今回の情報ネットワークでは、理学療法体験に参加してきた9名の生徒の感想を掲載します。理学療法に興味のある生徒はぜひ、参考にしてください。



3年女子

私は授業で社会福祉演習と基礎介護を選択していますが、その中で高齢化が進んでいることを学びました。急性期のリハビリテーションということもあり、高齢の患者の方が多くいらっしゃいました。これからの時代に理学療法士はとても必要な存在になるとお聞きして、私も理学療法の仕事に就き社会に貢献したいと強く思いました。そして、患者さんの身体面だけではなく精神面からもケアをし、心から元気になっていただけるような理学療法士になりたいと改めて思いました。今回勉強したことは進路選択に活かしていきたいです。

3年男子

私は福祉系の仕事に興味があり、進路も福祉を学べるところに進もうと思っていました。私は高齢者や障がい者の方々の役に立てるような仕事がしたいと思っていたので、今回の体験で、治療しなければならない部分をどのような治療をすれば良くなるのかを考えたりすることや、筋力が衰えないようにトレーニングする方法があることを知り、さらに興味が湧いてきました。患者さん一人ひとりに、理学療法士、作業療法士の方がとても優しく、力強く、患者さんを引っ張っている姿が一番印象的な姿でした。この経験を将来活かせるように、これからも勉強を頑張っていきたいと思いました。

3年男子

私は中学生のころから、理学療法士になりたいと思っていました。今まで理学療法士について調べてきましたが、表面だけの理解で実際はよく仕事の内容がわかっていませんでした。先日の体験で実際の現場を見ることによって、患者さんとの接し方や理学療法士の在り方について考えることができました。理学療法士の方々は患者さんと接するとき、常に笑顔でした。そして、患者さんも笑顔でリハビリを受けていました。リハビリを受ける患者さんは様々な病気や問題を抱えているので、リハビリは怖いし、辛いと思います。でも、理学療法士の方々が常に笑顔で接することによって信頼関係ができ、安心してリハビリを受けられるのだと感じました。また、理学療法士はチーム医療で様々な立場の人と連携して仕事をしています。チームの一員として働いている理学療法士の方々を見て、自分も努力し、夢を叶えたいと思いました。

3年男子

今回、理学療法体験に参加して思ったことは、人を助ける・治すということは難しいということです。私は、今回二人の患者さんのリハビリを見学させていただきました。一人は、脳梗塞を患い半身不随となった方で、もう一人は、加齢による関節の痛みをもっておられる方でした。担当の理学療法士さんは、「患者さん一人ひとりに合わせたリハビリ、日によって違うリハビリをしている」とおっしゃっていました。私は、理学療法士という職業には、学力だけでなく、何事にも臨機応変に対応できる柔軟性と、患者さんと笑顔で接することができるコミュニケーション力が大切だとわかりました。今回の体験を通し、理学療法士はやりがいのある仕事だと思いました。

3年女子

今回、理学療法体験をし、印象に残っていることが2つあります。1つは、患者さんとのコミュニケーションです。リハビリ中に常に患者さんの体調を気にかけ、一人ひとりの体力に合わせて運動療法を行ったり、辛いリハビリの間にその患者さんの家族や趣味の話をする姿を見て、コミュニケーション力が大切だと感じました。

2つ目は、患者さん一人ひとりのリハビリに対する積極的な姿です。担当した患者さんの一人に、リハビリしても良くなる可能性があまり高くないとおっしゃる方がいました。ですが、その方から、「それでもこうして頑張っている」という言葉を聞いたとき、逆に力をもらった気がしました。今回の体験でますます理学療法士になりたいと思いました。

2年男子

先日の理学療法体験に参加して思ったことは、どの入所者の方も笑顔でリハビリをしていたことです。自分は今までリハビリというものは辛く苦しい思いをして行うものだと思っていました。でも実際に理学療法士さんがリハビリしているところを見ていると常に笑顔で入所者の方と接していました。すると、入所者の方も自然と笑って元気になっていました。こうしたことで前向きにリハビリをする姿がとても格好良く見えました。また、一人ひとりに合ったリハビリ法を探したり、勉強したりされていたので理学療法士とはとてもやりがいのある職業なのだと思います。

今回の理学療法体験に参加したことは自分にとって、とてもいい経験になりました。今回学べたことを十分に活用して誰にでも優しく接することができて、常に笑顔でいられるような理学療法士になれるよう努力していきたいと思います。

2年女子

私は、最初理学療法という分野を詳しく知らず、理学療法と作業療法の区別もあいまいでしたが、職員の方のお話を聞いて、理学療法が腰から上で作業療法は腰から下を治療することを知りました。また、患者さんとのコミュニケーションの取り方などを見ると、患者さんそれぞれに合った接し方をされていたのですごいと思いました。

様々な所を見学させていただいた他に、体験もさせていただきました。その中で一番印象に残っているのは義肢装具をつけて歩くことでした。ギプスのようにしっかりとしているのですが足首が動かず歩きづらかったです。とても貴重な体験をさせていただきました。

2年女子

私は、今回初めて理学療法を体験しました。リハビリというのは身体面や心を鍛えることをするというのは想像していましたが、どのように行うものなのか詳しくは知りませんでした。

リハビリには様々な種類のトレーニング器具があり、その中で私は足の筋力を鍛えるスクワットをする器具を使わせていただきました。その後、理学療法、作業療法、言語聴覚の3つを体験しました。理学療法のリハビリでは起立動作、歩行訓練を見て理学療法士の方が患者さんに励ましの言葉をかけていた様子を目にし、とてもかっこいいと思いました。言語聴覚のリハビリでは、写真を見て名前を言ったり、探したりと言葉の勉強で、しりとりにも参加させていただきました。作業療法では、花を生けたり、折り紙をしたりして、とても楽しい職業だと思いました。

私は自分の進路をまだ決めている途中なので、今回の貴重な体験を参考に進路を決めていきたいと思いました。

2年女子

今回理学療法体験に参加し、半身不随の方のリハビリを見学し、実際にその患者さんの腕を動かしてもらったりしました。その患者さんは半身不随のために片足でバランスをとれず、斜めになっている足に義足のようなものを履いてリハビリをしていました。リハビリ用の階段にのぼることは無理なくできたのですが降りるときが大変そうでした。また、車椅子にも実際に乗せていただきました。

理学療法士の方と接し、理学療法士は医療でも介護でも必要不可欠な職業だと改めて感じましたし、観察力やコミュニケーション力が大事だとわかりました。今後の学校生活の中で身につけていきたいと思います。

情報ネットワーク

高島高等学校進路通信
2013. 8. 28発行

今回の情報ネットワークでは、作業療法体験に参加してきた5名の生徒の感想を掲載します。理学療法体験と作業療法体験の両方に参加した生徒もいます。その違いや感じたことをつづってください。今後も需要のある職業です。興味のある生徒は、ぜひ参考にしてください。



3年男子

私の夢は理学療法士になることでした。しかし、最近「作業療法士の仕事もわかっていないのに、理学療法士になると決めているのかな」と思うようになり、今回作業療法体験に参加しました。私は、理学療法士の方が作業療法士より優れていると思っていました。ですが、それは間違いでした。リハビリにとって、理学療法も作業療法もなくてはならない存在で、2つで1つのものなのだと感じました。

作業療法は理学療法と違い、患者さんの精神面のリハビリをすることができ、奥が深い職業だと思いました。また、作業療法には創造性が大切で、患者さんのために日常生活で使う物を使ってリハビリするなど工夫が求められます。患者さんとの距離が近く、楽しくリハビリをしている作業療法士さんの姿を見て、作業療法士の道も考えてみようと思いました。

3年女子

今回作業療法体験に参加し、たくさんのことを学ぶことができました。まず、病院には急性期・回復期・維持期があると知りました。患者さんが元の生活に戻れるように自助具などを使い、患者さんに合わせたリハビリスタイルを考えることが大切なことだとわかりました。実際に自分自身もリハビリを体験させていただき、簡単そうに見えてもなかなか上手いかわからないこともあることを知りました。私は、作業療法の道に進むか、理学療法の道に進むか悩んでいましたが、両方を体験してみて、自分には作業療法士が向いているかもしれないと気付くことができました。そして作業療法士は、身体障がい・精神障がい・発達障がい・老年期障がいと様々な年代の患者さんと関わることができ、たくさんの中で活躍することができるということにとっても魅力を感じました。これからさらに勉強し、患者さんから信頼してもらえるような作業療法士を目指し、頑張ります。

2年女子

職員の方々や利用者の方々に温かく迎えていただき、たくさんの人たちと交流することができました。

体験させていただいた内容は、作業療法士の方がリハビリをしているところを見せていただいたり、昼食を利用者の方に運んだり、体操と一緒にさせてもらったりと、色々な経験をしてきました。中でも体操は、作業療法士の方が中心となって椅子に座りながら、手や足、ボールを使って体を動かしていました。体操を楽しそうに行っている利用者の方が姿が印象に残っています。

また、作業療法は日常生活で必要とされる、食べる・歩く・排便などの動作をできるようにすることだと改めて知ることができたので良かったです。今回学んだことを活かしていけるようになりたいです。

2年女子

初め、施設の中を案内していただきました。気になったことを質問すると丁寧に教えてくださいました。特別養護老人ホームと介護老人保健施設の違いも教えていただいて、それぞれの目的が違うことがわかりました。次にホールで体を使った作業療法を利用者の方々と一緒にさせていただきました。見ただけだと遊んでいるように見えました。しかし実際にやってみると腕

と同時に頭も使うので、見ていたのと違い驚きました。一つ一つの動作にもきちんとした目的があり、これなら楽しくリハビリができて良いと思いました。職員の方々の話も聞くことができ、利用者さんとの接し方などを教えていただくことができました。

作業療法体験を通して、細かい作業をするだけでなく体を使う方法もあることがわかりました。

2年女子

はじめは緊張しましたが、担当の作業療法士さんと話をしていくうちに、だんだん慣れていきました。体験では、何人かのお年寄りのリハビリを見たり、トレーニング器具を使ったり、遊んだりしました。施設で働く作業療法士の方々の快活な姿やお年寄りと接する姿がとても印象的でした。また、作業療法士になるための勉強や学校のことについて質問する時間を作っていたとき、大変な道のりで、大学と専門学校でも違うところがたくさんあることがわかりました。私が一番印象に残っているのは、この仕事をしているときに一番うれしいこととして、リハビリをしたあとに「ありがとう」という一言をもらえることだとおっしゃっていたことです。人の役に立てる仕事はいいなと思いました。温かいものを感じました。そして、知識も豊富でなければいけないとも思いました。

私は将来なりたい職業がいくつかあり、迷っています。ただ1つだけ決めていることは、人の役に立ったり、人を笑顔にする仕事に就きたいということです。そのためにも勉強をがんばり、一日一日の授業を大切にしたいと思います。

知っておこう！！

理学療法と作業療法の基本的な目的

理学療法→手足の曲げ伸ばしといった基本的な運動機能の改善、寝返りや立ち上がり、歩行といった基本的な動作の改善を主たる目的として行う。

作業療法→食事や更衣・入浴などの日常生活の諸動作や仕事・学習・遊びなどの趣味活動といった人の生活全般にわたる応用的・実的な動作の改善、及び社会生活適応能力の向上を主たる目的で行う。